

CASBEE新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1. 建物概要

建物名称	MXナイロン新充填所	
建設地	新潟県新潟市北区松浜町3500	
用途地域	第一種住居地域、工業地域、工業専用地域	
建物用途	事務所、工場	
竣工年	2023年2月 予定	
敷地面積	941,242.00 m ²	
建築面積	2,445.44 m ²	
延床面積	2,683.98 m ²	
階数	地上2F	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2022年6月21日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{58.9}{42.1} = 1.4$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

項目	平均スコア	評価	対策	削減率	達成率
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	3.9		バリアフリー計画 維持管理 設備の更新性	Q2.1.1.3 Q2.1.3 Q2.3.3	- 4.0 3.8
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	2.8		耐震・免震・制震・制振 信頼性	Q2.2.1 Q2.2.4	3.0 2.6
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	4.0		建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用	LR1.1 LR1.2	5.0 3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	2.3		節水 躯体材料以外でのリサイクル材の使用 部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.1.1 LR2.2.4 LR2.2.6	3.0 1.0 3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	3.0		生物環境の保全と創出 敷地内温熱環境の向上	Q3.1 Q3.3.2	3.0 3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	3.0		まちなみ・景観への配慮 地域性への配慮、快適性の向上	Q3.2 Q3.3.1	3.0 3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

1.長寿命化の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ①維持管理面への配慮 <ul style="list-style-type: none"> ・耐候性の高い外装材の採用、効果的な水切などの設置、清掃しやすい内装材の採用等 ②更新性への配慮 <ul style="list-style-type: none"> ・天井裏メンテ歩廊の設置、共用部からのメンテナンスルートの確保、SKの設置等
------------	---

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

CASBEE新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	MXナイロン新充填所	階数	地上2F
建設地	新潟県新潟市北区松浜町3500	構造	S造
用途地域	第一種住居地域、工業地域、工業専用地域	平均居住人員	15人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,600時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2022年6月21日
敷地面積	941,242 m ²	作成者	秋山 暢大
建築面積	2,445 m ²	確認日	2022年6月21日
延床面積	2,684 m ²	確認者	秋山 暢大



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 ・建物としての配慮: 窓など極力減らして、断熱性能の向上を図っている。 また外装材には断熱パネル、開口部にはペアガラスを採用し、熱負荷低減を図っている。		
Q1 室内環境 ・屋根、壁、開口部に、それぞれダブル折版、断熱パネル、ペアガラスを採用し、外部熱負荷の影響を抑えるよう計画。	Q2 サービス性能 ①十分な高さの天井などで広さ感確保。 ②維持管理しやすい内装材の採用 ③設備機器の2重化などによる信頼性向上。	Q3 室外環境 (敷地内) ・建物位置の配慮、屋外設備置場は冷媒などが短くなるように分散配置。 周辺地には影響がない位置に建屋を計画することで敷地外環境に配慮。
LR1 エネルギー ・省エネ型機器の採用、LED照明の全般的な採用、建築主による管理運営基本計画の策定予定など。	LR2 資源・マテリアル ①省水型機器の採用 ②躯体、内装材、設備機器の分離解体が容易な計画 ③特定有害物質の積極的な排除	LR3 敷地外環境 ①省エネ機器の採用などによる温熱環境への配慮 ②廃棄物量の把握と計画的な改修方法の策定を予定

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される